

京都大学男女共同参画推進センター

女子高生 車座フォーラム 2020報告

京都大学の受験を目指す

女子高生の
みなさんへ

参加
無料

知ろう! 語ろう!
京都大学!

京都大学の受験を目指す女子高校生の皆さん!
受験の前に京大の教育・研究を知り、
学生や研究者と話をしませんか?



フォーラム



何が
できるの?

どんな
研究を
するの?



～女子高生・車座フォーラム 2020～

12月26日(土)に「女子高生・車座フォーラム2020」をオンラインにて開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高生に京都大学での学生生活や研究者の仕事を知ってもらおうという企画です。今年で15回目の開催となり、高校生95名、保護者7名の参加がありました。

今年度はZoomでの開催となったため、大学紹介や入試説明は動画配信にし、研究者の発表を省いたり、質問はメールにて事前に受け取るなど時間の短縮をするように調整しました。教員・学生と女子高生のグループワークや学生と保護者との意見交換については、例年通りに時間の変更をすることなく行いました。今村 博臣男女共同参画推進センター広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査の司会進行のもと、はじめに、稲垣 恭子センター長より開会の挨拶と京都大学についての紹介がありました。稲垣センター長は、京都大学は学生・研究者が自分の知的好奇心をのびのびと育てていく「自由の学風」の文化をもっていると述べ、「このフォーラムを有意義に楽しんでいただいて、京都大学にチャレンジされるのをお待ちしております。」と締めくくりました。

【京大体験型海外渡航支援制度～鼎会プログラム「おもしろチャレンジ」の紹介】

既製の留学ではなく学生の主体的に海外で学んでみよう、という意欲を後押しすることを目的として創設された京都大学の体験型海外渡航支援制度「おもしろチャレンジ」2019年度体験者、医学部の石川真帆さんの「チエコで学んだ犬の福祉」と、大学院アジアアフリカ地域研究研究科の皆木香渚子さんの「マングローブの森で異文化激突」の2名の動画を配信しました。

【グループワーク】

<高校生：講師・京大生とのグループワーク>

高校生は希望学部別にブレイクアウトルームに入り、グループワークを行いました。

事前に集めた質問内容をもとに、学生は受験勉強や学生生活といった実体験を語り、研究生活や専門などについては講師が回答しました。質疑応答以外にも活発な意見交換が行われ、非常に内容の充実したグループワークとなりました。

<保護者：京大生との交流>

高校生がグループワークに参加している間、保護者は京都大学学生との交流会に参加しました。保護者から学生へ学校生活や学部などについて疑問に思う数々の質問があり、学生が回答しました。
(詳細は次ページからの報告をご覧ください)

【まとめの全体会】

グループワーク終了後、まとめの全体会を行いました。足立 壯一男女共同参画推進本部支援室長の司会進行で、それぞれのグループで話し合った内容を報告し、他のグループでの話し合いについて情報共有しました。また、今回参加した学部ではない他の学部への質問に対してその場で担当教員からの回答があり、時間いっぱいまで有意義な時間となりました。(詳細は冊子後半をご覧ください)

最後に入試企画課が8月のオープンキャンパス用に作成した動画を配信し、閉会しました。

～保護者と京大生の交流～

質問1： 親として心配なことがあって、皆さんが言われた自由の学風というのは非常に感じます。私も実は30年前に理学部の方でお世話になりました。当時を思い出しても、その周囲の学生、周りにはすごく恵まれたと思う反面、結構カリキュラムはいい加減だったり、学校の授業そのものは特に1、2年のころは、科目間の関係とか授業の質とかはあんまり良くなかったかなと今は思い出しています。いい加減な性格だったらいいと思いますし、自分は割とその辺は流したけども、学校はきれいなカリキュラムで、これを食べると成長できるよみたいなのではなくて、割と自分でやりなさいとなれば、それゆえの苦勞をしないかなと心配です。何をやってもいいと言われると、特に、高校が私立ですごく受験指導もしっかりしていたところから、ポンと放り出されて苦勞はしないだろうか、今は大丈夫なのかな、という懸念があります。その辺りで苦勞した経験とか、子どもへのアドバイスとかあればいただきたいなと思います。

京大生： 私は理学部ではなく文学部で話はちょっと違うかもしれないんですけども、私も父が30年ぐらい前に学生を京大でやっていたという経験があって、なんかちょっと似ているなと思ったので回答させていただきます。

私も入るときに同じことを言われておまして、大学に入ったらそんなに授業はないみたいなことをすごく言われて、どういうことだと思いながら大学に入ったという経験がありました。確かに30年前の話聞いてるとすごくみんな勉強もいいけど部活の方が楽しいとか大学はあんまり行ってなかったみたいな、今はあんまり信じられないような話を聞くことがあります。最近30年前に比べるとすごく厳しくと言ったらあれですけど、本来大学があるべき形になってきていると思っています。こういうコロナ禍の中でも普通にいろんな勉強をさせようというか、できるだけ勉強にちゃんと取り組んでもらおうという意欲は少し見えますし、特に1年生は科目の選択権がすごく大きいかなと思っています。一般教養と言われる科目を自分で選ばなければいけません。私は公立なのでちょっと違うかもしれないですけど、今までは「これをやったらいいよ」とか、「これをやったら勉強になるよ」と言われて勉強をされていたと思いますが、ある意味、そこから解放された分、自分の時間が許す限り、自分の都合に合わせて興味あるものはとりあえず取ってみるみたいな形で最初は選択することもできますし、どれをしると逆に言われない分、自分が今までやったことがなかったものでも、例えば私だったら文学がすごい好きだけでも、なぜが知らないけど生物の授業を取ってしまったとか、何かすごく違うものを取るという機会にもなったりします。

あとどうやって勉強をするようになるかというか、何をやれと言われない部分もあるんですけど、一応卒業要件のために、例えば私だったら文学部ですけど、理科系を3科目は絶対取らなきゃいけないだとか、英語の教科を何コマは絶対取らなくてはいけないみたいな、一般教養で課されたノルマみたいなものが実は存在しています。それがあ意味いいように働いて、理系の人だったら、文系はほぼ興味がなくても、英語をやらなきゃいけない、国語をやらなきゃいけないとか、文系の科目をすごくやらなければいけないみたいな瞬間も存在します。結構、1年生のときは学部関係なくコンスタントに勉強しなければ卒業できないみたいなシステムにされていたりもします。

1年生のときは、自分が今まで触れたことのない教科に触れざるを得ない状況にさせられたりもします、意外と高校からのギャップというか、高校の学びからの大学1年生のギャップというものは、もしかしたらそんなに大きくないかもしれないなとは思ったりもしています。このような回答で大丈夫でしょうか？

質問2： 研究をするために必要な体力について質問します。娘は今医学部に行きたいと思っています。ただ、そんなに体力がないというか運動神経も良くないし、根を詰めてやると知恵熱が出るタイプです。

この前、高校生クイズか何か見ながら、タイヤを運ぶような力技で男子高校生が運ぶのを見て、何かずるいみたいなことを言ったんですよね。でも、研究とかになると要領は悪いけど、3日徹夜したから成果が出たような、そういう体力技のときもあるよみたいな話をしつつも、いざ研究とかに取りかかったときに体力のあるなしで男子はいいなみたいに思える場面がないのか？ その辺りでそういう差を感じられたり、それを克服されてるようなことあるのかがちょっと気になりました。何かその辺のご苦労とか、いやそんなことないよとか、そういうのがあればお聞かせいただければなと思いました。

京大生： 僕自身男子で、女子学生は3人いるので、聞いてみたいかと思います。きっと皆さん、全員が体育会系でバリバリ運動しているだけじゃないと思います。なんか文化系でした、とかいう人がいれば、ぜひ。

京大生： 医学部医学科の学生です。ご質問があったとおり、体力の話なんですけど、私も、もともと高校は書道部で運動神経も良くて、徹夜とかしたら次の日はしんどいみたいな感じで、体力はある方ではないと思います。よく言われるのは、例えば受験とかに関しても、男子は割と短距離型というかそのスタミナで最後追い込みをかける、秋冬ぐらいにすごく伸びて最後合格するみたいな感じで言われたりする

のですが、私は逆に女子の強みは、マラソン長距離型の頑張り方かなと思っています、受験にしても、大学に入ってから研究とかにしても、割とコツコツと周りの女友達とかもコツコツ積み上げることで頑張っている子が多いかなと思います。でも、テストの前とかも、女の子の方が入念に前々から準備してるみたいな感じです。それで、結局勉強量とかは男子と変わらず、最後上手くいけたりもすると思うので、女子だからと言って、スタミナというか、最後に、パワーでなんとかできないからそれが弱みかと言ったら、それはそんなことはないと安心していただいていた方がいいかなと思います。

私も研究室に通っていたときは、今は通ってないのですが、昔1、2回生の時に、すごく通っていた時期があって、そのときは、自分が好きな研究だったということがあって、逆にすごく頑張れたという経験もあるので、体力がないにしても、自分が好きなこと、本当にやりたいことだったら頑張れるという点もあるかなと思います。なので、女子だからといって心配することはないかなと思います。

質問3： これは在学生の方への質問にはならないかもしれないんですけど、今年度から大学の入試のやり方がいったん変わるという話もありつつ、なんかグダグダにもなりつつと思っています。受験勉強をするときはこれまでだったらその過去5年10年の過去問を解くとか、そういう形式かと思いますが、今年度からガラッと変わるかもしれない場合に、基礎力をつけていくしかないのかなとか、その辺の勉強の仕方が非常に難しいなあかと思います。

悩みとか不安は漠然としていてるんですけど、そういう受験のやり方が変わるかもという中で、こうしたとかいうようなコメントがあればいただければなと思いました。

京大生： 私から答えさせていただきます。私は受験をしたのが3年前なので、私の頃とは事情はもちろん変わっていると思いますが、妹が受験生で今勉強していてそのセンター試験がいきなり変わるということで、分からないこととか、結構多そうで、特に妹は浪人生なので、去年までと全然様式が変わるということで、不安を抱えているみたいです。共通試験もそうですし、京大の2次試験もそうなんですけど、基礎ができていたらあまり問題ないかなと思っています。共通試験をやれば全国で受けるものですから基礎、学校で習うようなことを基本的にちゃんとできたら大丈夫かなと思います。

どの受験生にとっても初めての経験なので、そこは皆心配だとは思いますが、基礎を固めるというのが大事なかなと思います。二次試験に関しても、共通試験の

影響を受けて二次試験がどういうふうになるかというのも、色々ちまたで言われたりしていて、分からないところは多いと思います。基礎をちゃんとしつつ、二次試験の過去問は結構大学の傾向もはっきり出ますし、今年もちゃんと役に立つとは思っているので、基礎をちゃんと固めながら、京大の過去問を解いて、傾向とか形式に慣れるのが、対策としてはいいかなと思います。今まで通りの対策しかできることはないかなと考えています。

京大生： それに1点加えたいなと思うことはあるんですが、私は今大学受験生を塾で教えている立場になっていまして、共通テストどうしようみたいな感じの生徒も、京大志望ではなくても結構いらっしゃるの、問題を時々見せてもらうことがあります。共通テストに関しては、リスニングに比重がかかったり、結構、点数的に調整されている部分は多いなと思ったんですけど、最終的に問いたいところはそんなに変わってないなという部分は、感じております。結局は、さっきの話にあったように基礎力があるだけではなくて、それをどうやって生かすかまで分かっているかというところまで問いたそうな問題に見えています。今まででしたら、それを知っていれば解けるみたいな問題が結構多くて、知識があってそれをバーツと出せばいいみたいな感じに見えていたんですけど、どうひとひねりするかという工夫みたいな部分まで頭が及んでいるかというところを聞いたような雰囲気を感じています。

2次試験は、ここには私よりもずっと賢い人がまだまだいるので他にも聞いていただきたいんですけど、今まで過去問を解いていて、2次試験は過去問25ヶ年分解いてきた中で、いろいろ見てはいるのですが、例えば英語であったりとか国語であったりとか、出題形式がほとんど変わってない。特に英語に関しては読めるか、書けるかみたいな感じで、本当に読み書きができて、単語が分かっているししっかり基礎的な必要な文法が分かっているということをみんなに求めている、最終的には多分医学部を目指されているんですから、どんどん英語の論文とかも医学部だけでなく、いろんな学部で英語の論文とかを読んでいく必要が世界で活躍しようと思えば絶対必要になりますし、そういう勉強をしていくときに困らない程度のレベルの知識があるかどうかということを知りたいという本質的に求めているものは変わってないかなと思います。特に2次試験に関しては本当に過去問25ヶ年分とかをガンガンやっていただいて、出題形式に慣れて、京大が何を欲しがっているのかを考えて解いていただくのが一番合格に近いかなと思います。

共通テストとちょっと形が違うので、共通テストに寄せて勉強した方がいいかなと思いますが、2次試験に関しては、問題作成者の教授たちもそんなにいっぱい入れ替わってはないので、やりたいことはそんなに変わってないんじゃないかなとは思ったりしています。

質問4： 私は、親としてあんまり口出しはしてないんですけど、娘が小さい頃から京大の医学部に行きたいという夢を持っていて今目指しています。反面、他の学部を全く検討していません。医学部に入る学力があれば、他の学部も入れるから私はいいだろうと思っているんですけど、その他の学部を検討させるように促す必要が親としてあるのか、ちょっと悩んでいます。親からアドバイスを受けたいかどうか。お願いします。

京大生： 私は医学部ではなくて経済学部ですけど、受験するときに親から他の学部は見ないのとか興味がないのとか言われたんですけど、学部によって勉強できることとかその先の就職した後とか将来のビジョンとか方向が全然違うと思うので、自分が興味があるとか好きでこの学部に行きたい、ここでこういうことやりたいというのが決まっているのに、他はどうなのと言われても、正直結構的外れ感が強いというか、私はいや別に興味ないからいらないと思ってしまいました。特に、私の受験の年とかその前ぐらいの年の話ですけど、文系の中で合格最低点とか見比べているとその年の話では経済より法学部の方が入りやすそうという傾向がありました。最近では分からないです。でも、私が京大模試とか受けてC判定だったので、C判定は合格可能性50%ぐらいと言われて親に結構心配されていたんですけど、自分が興味のない学部をめたく受かったとしても、入ってから逆にしんどいと思いますし、京大にこだわるよりは、自分が入りたい学問とか学部にこだわる方がいいです。私の親とか結構京大ブランドが好きみたいなの、憧れるみたいなのところもあるんですけど、当事者としては、京大にこだわるよりは学部にこだわる方がいいと思います。

京大生： 私は医学部で友達の様子とか見ていて思うのが、医学部だったら芯がしっかりしている方がいいなと思っていて、医学部に入りたいと強く思っているという人はすごくいいことだなと思います。

やる内容は専門的になってくるので、特にその京大を目指していらっしゃるということはその研究とかされたいのかなと思います。京大の研究室とかもいっぱいある中で、きっとやりたいこととかがあると思います。そういうところを選ぶときにも、すごく自分の芯があって、これをやりたい医学を勉強したいと思っ

ていらっしゃる人の方がちゃんとその夢を突き詰めることができると思うので、すごくいいかなと思います。

私は逆に芯がなくいまだにどの道に進もうかと迷っていて、医学部でこういうことをやりたいと思って入ってきた子たちに憧れを持ったりするので、そういう芯を極めるという道はいいかなと思います。

あと他の学部を検討してみしてほしいと思われる背景としてあるのは、医学以外での視点も養ってほしいみたいな、そういうお気持ちがあるんだと思います。医学部に入ってからでも、例えば京大でしたら、特に総合大学なので1年生、2年生の間に一般教養として他の学部の授業もどれも取れるので、あとその3回生以降でも、自分でその他の学部の授業に行ったりできるので、そういう点で他の勉強をする選択肢は広いと思います。それは京大の医学部を目指していらっしゃる点ではいいかなと思います。

さっき話がでたように、医学部というのも特にそうなんですけど、医学部を目指すのであれば、京大医学部にこだわるよりは学部こだわるという方がいいかなと思っていて、結局、国家試験を通ることが目標だとしたら、どこの医学部でもやるカリキュラムの内容は一緒なので、医学部にこだわる点はすごく大事なかなと思います。その中でも、先ほど申し上げたように京大だと特にその選択肢が広がるので、京大医学部を目指したいと娘さんがおっしゃるのであれば、ぜひ応援してあげてもらえればと思います。

質問5： 文学部の学生さんにお聞きしたいのですが、うちの子も文学部を志望しています。でも、どうしても京大の文学部でないというほどでもありません。いろいろな大学の文学部があると思いますが、どうしても京大の文学部に行きたいと思われた理由や、その魅力を聞かせてください。

京大生： 私が京大の文学部じゃないといけないと思ったのは、私がもともと興味があったのが心理学であったり、歴史であったりしたので、この土地でしかできない、例えば、私がやっている歴史ならこの土地でしかできない歴史がすごくあります。平安がすごく好きなので、平安京で京都の歴史を学ぶという重要性は私にとってはすごく大きかったので、ここでないと駄目だなと思っていました。

以上

～まとめの全体会～（各学部教員からの報告）

（文学部）

こちらのグループでは10人の高校生の参加がありまして、自己紹介から始まって、事前にいただいていた質問に答える形で進めていきました。

質問は主に大学生の生活はどんなものなのか、ということ。それから専門の勉強とか志望の学部はいつ頃、どうやって決めたか、そのやりがいについてなどでした。文学部で勉強できる学問で、他の学部でも勉強できるものがあるのですが、それはどういうふうに違うのか、どういう工夫で選んだらいいのかというような質問がありました。文学部らしいということ言えば、お勧めの本があれば教えてくださいということで、参加者全員で、お勧めの本をお互いに勧め合ってプレゼンをしてもらうということもしました。非常に文学部っぽい雰囲気が出ていたと思います。

（教育学部）

今回、11人の学生さんに参加いただきました。非常に活発な議論が展開しました。皆さんの話を聞いていて明確になったのは、「人間とは何か」ということを知りたい。そのための研究を教育や親子関係を含めて、そういったツールを通じて知りたいということをお話ししました。特に教育学部で大事にすべきところというのは、今、環境がこれだけ激変している中で、人間とは何かを知るためには、いわゆる文系とか理系という発想を超えてしっかりと理解をしていく。そして、未来社会を作っていくということが大事だという話をさせていただきました。同時に、学部生の先輩に対しましては、東京大学とは違って京都大学の魅力は一体どんなところか、京都はどんな雰囲気ですか、という具体的な話も展開しました。京都大学の魅力を非常に理解してもらえたかと思います。

（法学部）

5名の方に参加をしていただいて、いろいろな話をしました。基本的には質問に回答しながら進行しました。いただいた質問は、京大の法学部ではどんなことをやるのか、入るためにはどんなことをどうやって勉強するのかというようなことを話しました。また、国際関係に関心を持たれている方が非常に多いのだという印象を持ちました。法学は日本国の法律を扱うことになるので、ドメスティックな感じがありますが、グローバルな社会で活躍していくための基礎になるし、法学の世界もかなり国際化しています。ですから、法学部に来ていただくのは、国際的なことをしようとするには、かえっていいというところもあると伝えました。

研究についてあまり話をしないまま終わってしまいましたが、とても魅力のある進路であるのでグループワーク内では話ができなかったですが、ご関心を持っていただけたらと思います。

(経済学部)

女子高生からの事前質問を受けて、学生が質問中心にスライドを作ってくれたので、そのスライドを中心に進めました。

具体的な質問としましては、経済学部のゼミの話だとか、選んだきっかけ、今、学生自身が行っている就職活動とか、入学して良かったこととかを、とても和やかな雰囲気です、話しあうことが出来ました。彼女はスライドのおまけとして受験勉強のことや京大生あるあるをつけてくれ皆で協議しました。参加者からも、大学院の進学や京都にきたら一人暮らしをすることになり一人暮らしで困ったこととはないかという質問などがあり、それについて話し合いをしました。

(理学部)

皆さんからいろいろ質問をいただいて一番多かったのは、大学での勉強、あるいは大学院、あるいは研究者になるとどういう研究を出来るのか、という質問が多かったと思います。皆さん、もちろん、まだテーマも決まってない方もいらっしゃいますが、今からこの研究をやりたいと決めている学生さんもいらして、非常にびっくりしました。皆さんモチベーションが非常に高いです。

理学の一番大きな特徴は、物理、生物、地学、科学と色々な専門分野がありますが入学するときは決めないで入学をします。まずは広くいろんな分野に触れていただき、その中から自分の好きなものを大学に入ってからじっくり考えるということが出来るので、そのあたりをご紹介します。

特に、京大でこれをやりたいと思っている学生は、京大の先生の顔が見えているところもあって、京大が発信しているいろんな情報をキャッチしていただいているのだろうな、ということが強く印象に残りました。もし、皆さんが入学してきていただいたら、一緒に研究できるといいと思っています。

(医学部医学科)

12名の学生さんに参加していただきまして、具体的には京都大学はどんな感じですか、高校生の間にどんな勉強をしたらいいですかというような質問があり、それ以外にも研究などどういったふうに研究テーマを決めていますか、研究室はどうやって選びますかなど研究に関する質問や、留学に関しての質問もありました。

昨今、研究や留学志向がなくなってきているように言われているのですが、こんなに興味を持っているのだということで、少し嬉しく思ったりしました。活発に議論ができてすごく良かったと思います。

(医学部人間健康科学)

高1の方3名が参加してくださいました。最初は質問に対する答えを先輩の方からプレゼンしたのですが、皆さん3名とも医療に、何か関わりたいなというモチベーションを持っている方が参加してくださいました。特にコロナの関係もあって医療職はちょっと避けたいとか、危険ではないのかみたいな意識もあるのかなと思っていたのですが、そういう中できちんと医療職に、だからこそ関わりたいんだという思いを持ってくださった3人の方が本日参加してくださったのを非常に嬉しく思っています。話し合ったことは、主には研究のことではなく学生生活のこと、受験勉強のことが中心で話が進みました。

(薬学部)

まず初めに自己紹介から始めさせていただき、その次に薬学部の学生生活、具体的に1年生から3年生までの研究室配属までと4回生からの研究室配属のこと、それから大学院への進学等々についてお話をさせていただきました。その後、京都大学の魅力は何ですかとか、京都大学を受験しようと思ったきっかけの理由などを話し、続いて、受験、生物・物理はどっちがいいですか、受験期をどのように過ごされていきましたかというような話をしました。最も多かったのは、研究も興味があるし臨床も興味がありますということで、どちらにいくかとか、薬学部は現在進振りで3回生修了時点で4年制に行くか6年生に行くかを選択するというので、どういうふうに選択すればいいですか、研究のテーマ・分野とかをどのように決めましたか、研究室はどうやって決めましたかという質問に対し専門との出会いについての話をさせてもらいました。

また、同じ医療系で医学部などもあります、その中で薬学部にひかれた理由はなんですか、なぜ薬学部に来たのかという話をしたりしました。また、最後の方では一部私の研究についても少し触れさせてもらい、すごく興味深く皆さん聞いてくれたので研究などに関してのモチベーションがすごく高いんだなと感じてうれしかったです。

(工学部)

本日、9人の1年生2年生の女子高生の方が入っていただき、質問に答えるような形で進めました。まず、最初に自己紹介をして、そして皆さんから事前にもらった質問に対してコメントするような形で進めました。皆さん、工学部を選んでくださっている背景には、ものづくりが非常に好きという方が多かったなという印象です。将来、そういう物づくりに携わる仕事にどんなふうにつながるのかとか、技術が今のところないということにちょっと不安を思われている方も多くて、例えばパソコンだとか、そういう物づくりの技術がないんですけど大丈夫ですか、そういう質問をいただきました。それは入ってから学べるいろいろなあるので、大丈夫ではないかという話をしました。

また、非常に工学にも興味があるんですが、他の分野にも興味があるという方も多くて、皆さんのお話を聞きますと、部活とか趣味とか、そういうことにも非常に熱心に取り組ま

れていて、そんな中で工学部も選択してやっていきたいという話があり他学部の聴講はできるか、そういう専門を決めていくのはどういうプロセスで決めていくのか、研究室を選ぶときにはどういう観点で選んだのか、そういったところで話が盛り上がりました。

ものづくりと将来の関わる仕事のことと、そこに至るプロセスとか技術的なところまで話しができたので、工学部らしい話の内容だったと思っています。

(農学部)

農学部は10名の学生さんが参加され、農学部に入ってから進路選択、こういう研究をしたければどこに入ればいいのかというのが非常に分かりにくいという問題がずっと昔からあるみたいです。毎年ある、この問題でこういう研究をしていくには、どれがいいですか、といった話が今年もありました。あとは、高校の間にどういうことをやった方がいいですか、という質問も結構たくさん寄せられて、最近の学生さんは先取り先取りでアンテナを張ってすごく調べているんだなという印象を持ちました。私の方は知らないことが多くて、ファシリテーターの学生2人にたくさんヘルプしていただきました。多分、高校生が知りたかったことを答えてくれていたと感じています。

口頭の質問だけではなくて、チャットの方でも、随時質問を管理していたのでものすごい大量の質問が出て、最後はさばききれず終わった感じです。非常に盛り上がり楽しい時間を過ごさせてもらいました。

(総合人間学部 文系)：

私は専門が演劇学なので、この車座という形式は演劇のワークショップで非常によく使われる形式で、実は日本人は割とお互いの顔を見合うというのは苦手なのですが、Zoomだとギャラリービューにすると自動的に車座みたいになるよと話し、和やかに話していきましょう、という感じで始めました。事前の質問がちょうど受験勉強の仕方、入ってからの勉強、就職はどうか、と3つともあったので、時系列に話していきました。皆さん、受験勉強はどうしていますかというのを、アイスブレイキングみたいな形で、順番に話していってもらいました。その過程で自分で興味を定めて、自分で自分を実験するように勉強するのがいいという話をしました。総人は何をやっているのかよく分からないところにあるのですが、そのときに自分の興味は何かというところから、自分の既存の専門分野とどう結びつけていくかという話と、入ってからの勉強と受験勉強も実は関わっているという感じで始まりました。

京大に入ってよかったのは、自分はこういうことに興味があるから、違う分野もこういうふうに進んでいるという人が普段いつも周りにいるという環境が京都の特徴でもあり、京大での特徴でもあるのではないかという感じでした。結構生活によった話で、パンフレットとか公式の資料で分かりにくいことが分かったかなという声をもらいました。

(総合人間学部 理系)

総人理系では9名の参加者がありました。総合人間学部では何を学んでいるかについて、他の学部に比べて分かりにくいところもありますし、また事前質問もありましたので、総合人間学部の5学系で具体的に何を研究しているかということについて説明しました。その後参加者の皆さんからの質問もやりとりしました。

ファシリテーターがとてうまく進行して下さったおかげで、高校生の参加者からの質問、具体的には受験勉強について、京都で一人暮らしをすることについてなど、疑問や心配事に対して、限られた時間ではありますが答えられたかと思います。

最も大切なことは、総合人間学部では、理系文系の区別なく学究できること。そしてまた、高校生の現在で、特に進路が決まっていなくても、総合人間学部での学びを通して、専門を決めていけば良いのではないかということについて話し合えたことです。

あと全体を通しまして、女子高生の皆さんから女性であるということについての問題提起がなかったので女性に対する社会的なつらさのようなものが改善されてきているんだということを実感しました。

～他学部志望者からの質問～

【理学部への質問】

質問：専門に研究する分野とはどのように出会いましたか？漠然と生物や医学の研究に興味があるのですが、インターネットで調べると、大学院の案内が出てくることが多く、大学に入学する前にどのくらい興味のある研究分野について考えると良いのか分からず不安です。

教員： 専門分野との出会いですが、あくまでも私の例だけですが高校のときに好きだった物理を、今も大学で続けています。大学の学部生のときは、いろいろ迷いました。数学が非常に面白くなって3年間数学をやっていました。物理は実験も理論もありますので、最初は理論思考でしたが、今は実験をやったりしています。最終的に決めたのは先生との出会いが大きかったと思います。4回生になりますと、皆さん、研究室配属で、ある程度先生と直接コンタクトする機会が増えます。そのときに、一緒に実験をさせていただいて非常に面白かった。それが一番大きかったです。皆さん、人それぞれだと思います。

専門分野を決める方法がよくわからず、不安だということですが、今は特定のことに絞らずにいろんなことを広く勉強したり、いろんな本、あるいは京都大学で発信してる広報の資料を見て面白いと思ったものを突き進んでいくのがいいと思いました。

【農学部への質問】

質問： 農学部に入ってから、他学部に興味を持った場合、学部変更等は可能なのでしょうか。

教員： これは、周囲の先生方に聞いたんですけど、絶対に無理ということではなく、ちらほらとは、実例はあるということですが、年々受け入れが難しくなってきたので、そんなに安易な道ではないということを知りました。

支援室長： 合格最低点が転入先というか、転出先を超えていないともうその時点で学部変更はできないという大学全体のルールもあります。

【薬学部への質問】

質問： 微生物創薬の研究は行われているのでしょうか？ホームページ、パンフレットでは見つけることができませんでした。またない場合、微生物創薬のような研究に取り組むことは可能ですか。

教員： これに関しては、今、薬学部は微生物の研究室がありません。なので、学部内の研究室に所属して、微生物創薬、こういったものを微生物創薬と考えていらっしゃるかわからないのですが、微生物創薬をすることはかなり難しいかなと思います。もちろん、研究室によっては、大腸菌であったり、ウイルスベクターというかたちで微生物は使ったりしているのですが、それ自体を研究する研究施設ではないのが現状です。学生がたまに指導委託というかたちで他の研究科の研修室に配属される学生もいますが、これは本当にごくごくまれな例で、本当に運が良くて、たまたまという場合が多いです。例えば、共同研究をしていたりという場合が多いので、おそらく不可能に近い状態かなと思います。

【経済学部への質問】

質問： 具体的にはどのようなことを勉強するのでしょうか？キャピタリズム等、経済、お金に関することがメインなのでしょうか？また、卒業後は勉強や研究したことに関連深い職業を選ばれる方が多いのでしょうか。

教員： これは学生さんの質問という理解で回答させていただきます。経済学部には参加していただいた方にも説明させていただきましたが、経済だけではなくて、経営分野の勉強もしていただくことが可能です。経営の中に、まだ微妙に違う会計という分野もあります。具体的にはミクロ経済学、マクロ経済学という基本的な経済学の他に、歴史系の社会経済学、思想史系の分野もありますし、経営学とか、あと会計

学とか、その他に統計や情報処理のような勉強もあります。それらを織り交ぜて勉強していただきます。

さらに申し上げますと、社会実践的な勉強として企業から講師を招いたかたちでの講義もあります。いろんな形の勉強をしていただくことが可能です。卒業後は勉強や研究したことに関連深い職業を選ばれるのでしょうか、ということですが、これも経済ですごく幅広い分野にわたっていますので、これまでは経済学部ですので、金融、保険、製造関係に行く人が多かったんですけども、ここ最近はコンサルティング会社、あるいはインフラ的なもの、あるいは商社に進む人が増えてきています。特に関連したところに進む人もいれば、関連したものを追い落とすところに進む人もいます。

【法学部への質問】

質問： 私は法学や経済学、国際的な話などさまざまな分野に興味があり、例えば法学部に入学すれば、法学しか学べないのかと思います今は総人を希望しています。

教員（法学）： 総人のカリキュラムとか、先生方のラインナップを見ると大変魅力的で、確かにいろんなことが勉強できそうでおもしろそうと思うので、今の進路選択でいいのかもしれないです。けれども、法学部の宣伝をすると、法学部は法学しか学べないということはないです。理系のすごく専門的な研究みたいなことはさすがにできませんけど、法学は人間社会を相手にするし、経済も相手にします、経済学はかなり単位が取れるし、むしろ積極的にやってほしいし、私たちがいつも言っているのも人間に関わる森羅万象を理解してなきゃいけないということで、そういうことがむしろ期待されているということではあります。法学部にもいろんな分野があるので、いろんなものを取っていくと、自然と勉強できるというところが、そういう関係する分野の知識が身につくということではあります。

国際については、国際的な現象について、学問をやりたいのか、国際的なステージで何かをやりたいのかを考えていただく必要があると思います。国際的に何かの活動をするのだったらコンテンツを持っておかないといけないので、コンテンツとして法学はお勧めです。

教員（総合人間学部）： 今、法学部の先生がおっしゃってくださったとおりで、何を選ぶにしてもどんな見方をするか、というどこかの立ち位置はすごく必要になります。その上で法学であったり、経済学であったりも重要です。総人グループで話をしたのですが、今の大学の学問体系の統制が19世紀末に出来上がった構想です。それがすごくいいところもあれば、不自由なところもあり、総人はどちらかという、この学問をこういうふうに分けていたら分かりにくいんじゃないかと

いうところをちょっとついでにみるということに、より興味がある場合にいいかなと思います。でも、大学の勉強として一つのことについていろんな角度から見るといのはどの学部でも同じだと思います。

【医学部医学科への質問】

質問： 文系に所属していますが、法医学に興味があります。法医学者として働く上で、法学や犯罪心理学などの知識は役に立ちますか。また、法医学に携わる上で、医学以外に履修しておくべき学問はありますか。

教員： 医学部の中でも法医学を希望される方は非常に少なくなっているというので、本当にありがたいなと思います。

幅広くいろんな知識を持つということは全く悪いことではないので、法学や犯罪心理学の知識は、興味があれば勉強していただくことに全く問題はないと思いますし、むしろそれは役に立つこともあるのだらうと思います。

とは言っても、その医学的な知識が基礎にあることになるとと思いますので、それをベースに興味のあるところを勉強していただくのが一番いいのかなと思いました。もし支援室長、何か追加があればよろしくお願いします。

支援室長： 私も小児科医ですので、これは公平正大に議論しなければいけないので、法医学の先生はおられませんけれども、法医学は非常に大事な分野です。今、コロナ禍で実習がなかなか難しかったりしますが、法医学は対面でないといけない実習で、また、個人情報も満載です。ですから、法医と病理は絶滅の分野がございまして、そういうところも考えていただくと大変ありがたいなと思っています。